

千代田区の大学間で学び合う防災 ～千代田区キャンパスコンソ学習会での体験～

1. 帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練

首都直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害への防災・減災のための取り組みが注目されています。そのため、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）の5大学・2短期大学を含む区内の大学は、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結しています。各大学では、区民や一般の帰宅困難者の受け入れ、及び、情報・食糧・飲料水などの提供などの使命を少なからず担うことが期待されています。

そこで、千代田区キャンパスコンソによる、令和3年度「千代田学」共同提案事業「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（研究代表者 人間栄養学部 酒井治子教授）」の一環として、令和3年12月4日(土)、法政大学 市ヶ谷キャンパスにて「帰宅困難者支援施設運営ゲームの体験会 & 学生ファシリテーター養成会」が実施されました。本学からは、人間栄養学科の3年、4年生が実践栄養プロデュース実習の一環として参加しました。

法政大学の一時滞在者支援施設を縮小して作成された帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練と共に、このグループワークによるゲームを牽引する学生のファシリテーターの養成の役割もありました。発災時において、帰宅困難者支援施設の開設に伴って、どのような安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有が必要であるのか、臨場感を伴った体験ができました。

今回は法政大学での帰宅困難者の一時滞在者支援施設を基に、グループワークでの訓練を実施しましたが、「本学の施設の場合には、どのようにできるのか」「どのような備蓄品があるのか」、学生の視点と、さらには、千代田区に勤務する帰宅困難者の視点の両面で、その対策の必要性を体験できました。

こうした防災・減災教育の場を地域の大学と連携しながら、学生ボランティアの人材育成につなげていきたいと思えます。



帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練



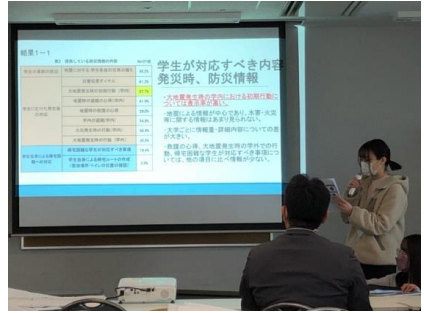
支援施設の課題と改善策のグループワークと発表

2. 人間栄養学科4年生による研究発表

「大学における学生・教職員を対象にしたホームページからの防災情報に関する研究」

在学時に大学生が被災した際に身の安全を守れるように、大学は事前にホームページからどのような防災情報を学生に提供しているのか、千代田区・文京区の31大学の実態を調査し、さらに、大学HP版防災啓発の要件を提案し、他大学の学生からの質問や意見交換ができました。

さらに、人間栄養学科の学生としては、大学での災害食の備蓄状況と共に、一時滞在が長期化した場合の栄養管理を目的に、対象に応じた災害食も検討しました。



- 1-1.千代田区・文京区の大学のHPによる防災情報は、大地震発生時の初期行動が67.7%と、地震による情報が中心であり、水害・火災等に関する情報はあまり見られなかった。さらに、マニュアルに詳細な説明が記載している大学もある一方で、HPに1行のみ情報を記載しているという大学もあるため、情報量の差は大きいことが推察された。
 - 1-2.帰宅困難者への対応が示されている大学は31校中、法政大学の1校のみであった。帰宅困難な学生に対して「災害時帰宅支援ステーション」に関する記述のある大学が複数みられた。
 2. 学生と比較し、教職員に対する防災時、防災情報の表示率は低く、学生等の避難誘導も12.9%もとどまった。大学の防災マニュアルは32.3%で表示されていた。
 3. 地域の行政機関、住民組織等との連携が明示されている大学は千代田区内16校中10校、文京区内15校中5校であり、防災の特設サイトでの区のリンクの記載は31校中2校のみであった。防災情報のSNSも表示されていなかった。
- 以上のように、地震、特に、火災・台風等の防災情報が少なく、また、教職員・大学の対応や帰宅困難者への対応に関する情報も十分ではないことが分かった。各大学の対策情報だけでなく、学生団体やSNSを活用した防災情報の収集や自宅までの帰宅ルートの作成等、学生が主体的に行動を起こすことを促す情報も重要であると考えます。

帰宅困難者施設の高齢者の献立 嚥下調整食3 舌でつぶせる【軟食食】

【場面】
震災後、1～3日間の
ライフライン寸断時

【工夫した点】
できるだけ、通常食に似た献立
加熱不要なレトルトを使用
濃厚流動食の活用

【栄養価】
エネルギー 857kcal
たんぱく質 25.9g
ビタミンB₁ 1.06mg
ビタミンB₂ 0.00mg
ビタミンC 0mg

全て既製品のため、舌でつぶせる固さであり、食べる力に合わせることはできたと感じた。しかし、全て既製品であるため、とても高価になり、一食約1000円となってしまった。今回、紙皿で提供したが、高齢者が自分から食べやすい食器、食具の選択も必要もあると感じた。

◎朝食
・鶏五目雑炊(アセリトルト)
・いわしと野菜の生姜寒(アセリトルト)
・野菜ジュース

◎昼食
・やわらかサケノタン(キューピー)
・なめらか野菜 かぼちゃ(キューピー)
・すりおろし果実ももりんご(キューピー)

◎夕食
・やわらかカレーライス(キューピー)
・やわらかおかず たら彩りあんかけ(キューピー)
・メイ(フランス)味噌
・コンスープ(明治)



プロジェクト概要

- テーマ
千代田区の大学間で学び合う防災
- パートナー
千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム(千代田区キャンパスコンソ)
- 担当教員
人間栄養学部 人間栄養学科
酒井 治子
- 実施期間
令和3年8月～令和4年3月